

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

兵庫県北播磨総合医療センター企業団 北播磨総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	34	対象	ド透I訓ガ	救臨が地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	38,109	非該当	非該当	7：1

※1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療

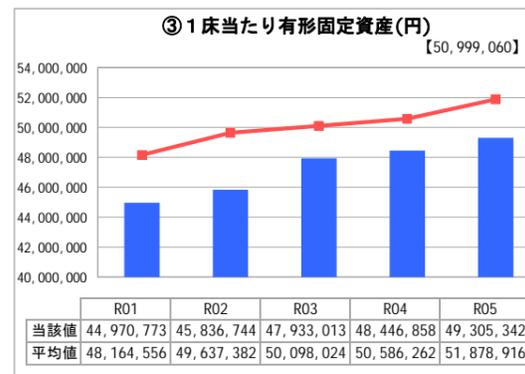
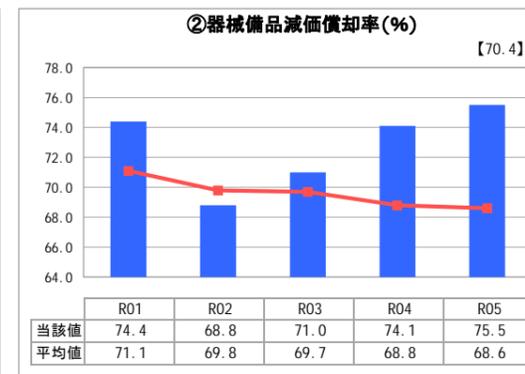
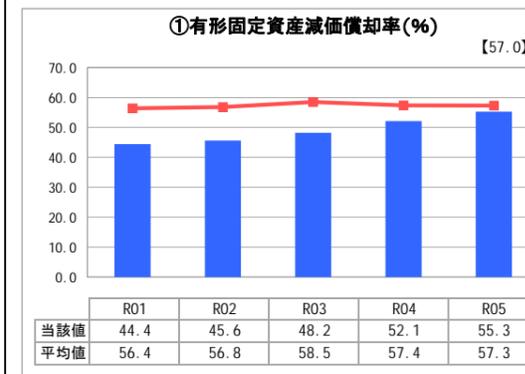
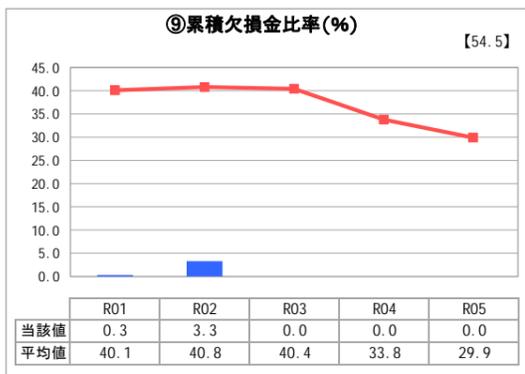
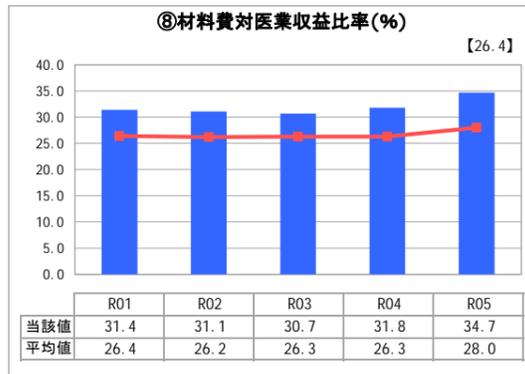
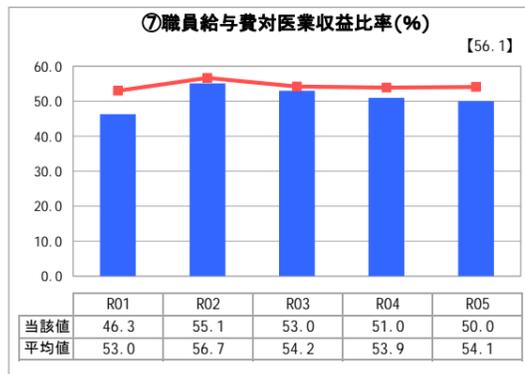
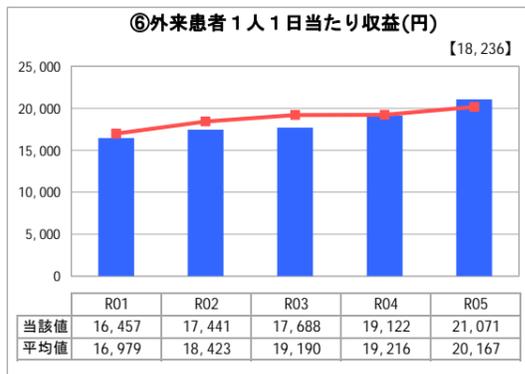
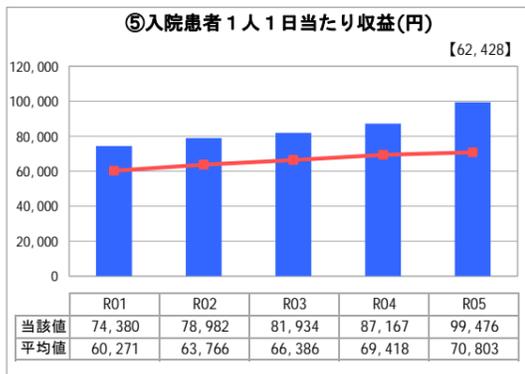
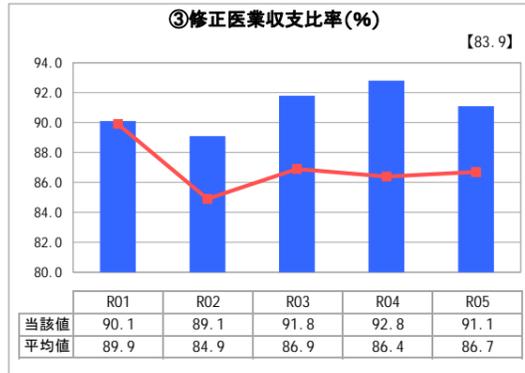
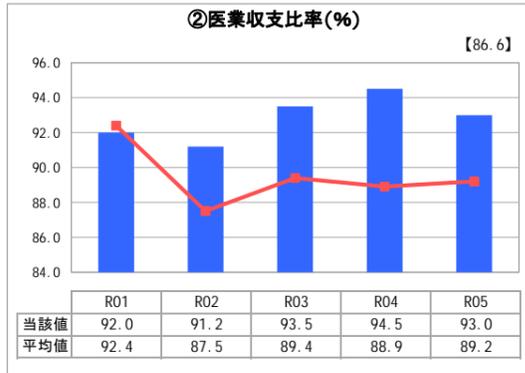
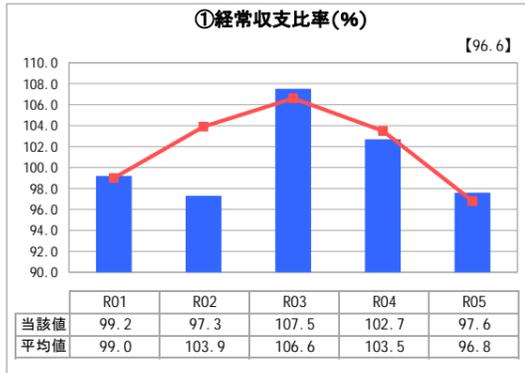
※2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輪...病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
450	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	450
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
390	-	390

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
令和6年度	-年度	-年度

## I 地域において担っている役割

地域の基幹病院として急性期医療（ER救急、小児救急、急性期心疾患、脳卒中、がん診療、周産期）を担うとともに、専門的で高度な医療の提供を行っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

重点医療機関の指定による休床補償補助金が大幅に減額となった影響等により、経常損益は約4億7千万円の赤字となった。また、当該補助金を除く経常損益はコロナ流行後5期連続の赤字となっている。物価高等による材料費高騰や、看護師不足による病棟閉鎖の影響で、依然として厳しい経営環境となっている。一方で、入院患者1人1日当たり収益は年々増加し、類似病院及び全国平均と比較して高値である。

### 2. 老朽化の状況について

平成25年10月の開院以来、有形固定資産減価償却率は年々増加している。開院時に取得した器械備品は、償却期間が順次満了しており、高額機器の入替え等の影響により、器械備品減価償却率が類似病院及び全国平均と比較して高値となっている。また、1床当たり有形固定資産は年々増加しているが、類似病院及び全国平均よりも低い状況にある。

## 全体総括

新型コロナウイルス感染症の5類移行後も医療機関におけるコロナ対応は大きく変更できないことに加え、昨今の燃料費高騰や物価高等により、依然として経営環境は厳しい状況となっている。そんな中、看護師確保対策に積極的に取り組んだ結果、令和5年3月より閉鎖していた2病棟のうち、1病棟を令和6年3月に再開することができた。引き続き、感染拡大防止の徹底、地域の医療機関との連携強化を図るとともに、病棟の運用再開に向けた看護師確保対策を実施しながら、高度で安心・安全な医療の提供に取り組んでいく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。